

中学校 国語科

1. 国語科における学習評価の基本的な考え方

国語科では、学習指導要領に示された資質・能力を、言語活動を通して育成していくことが大切です。この資質・能力は、指導事項として示されており、そのまま単元の目標として設定することが可能です。この指導事項を踏まえ、目標の実現に向けた生徒の学習の状況を評価します。また、資質・能力の3つの柱のうちの一つ「学びに向かう力、人間性等」は、年間を通して目標の実現に向けた粘り強さや自らの学習の調整をしようとする姿を評価します。いずれも生徒の学習や教員の指導の改善に生かすことが大切です。

2. 中学校国語科の学習評価の事例

中学校国語科の「内容のまとまり」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」で示され、それらが更に「知識及び技能」は（1）言葉の特徴や使い方に関する事項（2）情報の扱い方に関する事項（3）我が国の言語文化に関する事項に、「思考力、判断力、表現力等」は「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の領域に分けられています。この内容のまとまりを踏まえた学習評価の事例を、第1学年の単元で説明します。



例 第1学年 新たに知った言葉を紹介する～聞き手を意識して話す～

- 本単元で取組む言語活動と言語活動例との関連
- ・新たに知った言葉を紹介する（関連：思考力、判断力、表現力等 A（2）ア）

「学びに向かう力、人間性等」の目標は、いずれの単元においても、当該学年の目標の（3）の「言葉がもつ価値～伝え合おうとする」までを目標として設定する。

（1）単元の目標の設定

当該単元の目標を指導事項の一部を用いて設定する場合もある。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して 話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（1）ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。A（1）ア ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。A（1）ウ 	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

（2）単元の評価規準の設定

目標の実現に向けた生徒の学習の状況を評価するため、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点の評価規準は、目標として設定した指導事項の文言を基に設定します。また、その際、内容のまとまりごとの評価規準(例)も参考にします。

領域を意識して指導をするため「領域名」を入れるようにする。

生徒の「粘り強さ」や、「自らの学習の調整」をしようとする姿を評価する。言語活動自体を評価するのではないことに留意する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（1）ウ	<ul style="list-style-type: none"> ①「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。A（1）ア ②「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。A（1）ウ 	粘り強く（1）、表現を工夫し（3）、学習の見通しをもって（2）、新たに知った言葉を紹介しようとしている。（4）。

当該単元の目標に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を設定する。

生徒の姿を評価するため、文末は「～している。」等にする。

1から4の組み合わせは、目標や生徒の状況に応じて工夫する。

主体的に学習に取り組む態度の評価について

- 1 粘り強さ（例：積極的に・進んで・粘り強く等）
- 2 自らの学習の調整（例：学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等）
- 3 「知識・技能」「思考・判断・表現」において、特に粘り強さを発揮して欲しい重点とする内容
- 4 自らの学習の調整が必要となる当該単元の具体的な言語活動



